

国語、芸術（書道）

1 これからの国語科教育について

- 言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。
- 特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことを重視する。

2 これからの芸術科教育（書道）について（高等学校）

- 中学校国語科の書写との関連を考慮し、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質や能力の育成を図る。
- 感じ取る力や思考する力を一層豊かにするために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評したりするなどして、自分なりの意味や価値を作り出していくような鑑賞の指導を重視する。

3 各学校において取組が求められること

小学校

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成と改善
 - ・ 指導事項と言語活動の関連等を明記した年間指導計画の作成を進める。
- 新学習指導要領の趣旨を生かした単元や教材の開発
 - ・ 新たに充実した言語活動例を通して指導事項を指導する単元や教材を開発する。
 - ・ 学校図書館の機能を生かし、読書活動を効果的に取り入れる。
 - ・ 低学年における神話・伝承を扱った実践、中学年における易しい文語調の短歌や俳句を扱った実践など、新設した「伝統的な言語文化に関する事項」についての指導を充実する。
- 評価規準の見直し（「評価規準の作成のための参考資料（平成22年11月）」を参考にすること。）

中学校

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成と改善
 - ・ 指導事項と言語活動の関連等を明記した年間指導計画の作成を進める。
- 新学習指導要領の趣旨を生かした単元や教材の開発
 - ・ 新たに充実した言語活動例を通して指導事項を指導する単元や教材を開発する。
 - ・ 学校図書館の機能を生かし、読書活動を効果的に取り入れる。
 - ・ 第2学年における古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像することの指導を工夫した実践など、新設した「伝統的な言語文化に関する事項」についての単元や教材を開発する。

高等学校

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成
 - ・ 科目構成及びその内容を十分に理解し、それぞれの学校に応じた年間指導計画の作成を進める。
- 新学習指導要領の趣旨を生かした授業の工夫や改善
 - ・ 言語活動の充実について、国語科で行うべきことと他教科で行うべきこととを相互の関連を踏まえて整理し、授業の改善を図る。
 - ・ 学校図書館の機能を生かし、読書活動を効果的に取り入れる。

4 国語科、芸術科（書道）における言語活動の充実

- ・ 的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。
- ・ 特に、小学校の低・中学年において、漢字の読み書き、音読や暗唱、対話、発表などにより基本的な国語の力を定着させる。
- ・ 古典の暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。
- ・ 芸術科（書道）における鑑賞の指導に当たっては、作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする。

小学校 国語科の事例

- 設定した言語活動を通して育てたい力
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。
 - 目的に応じて、いろいろな本を選んで読み、その本のよさを説明することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 学年 第3学年
- 単元名 ようこそファンタジーの世界へ（教材名 『つり橋わたれ』 長崎源之助 作）
- 本時の目標
情景の描写（風）に注目しながら読むことで、登場人物（トッコ）の気持ちの変化と物語の展開（現実とファンタジーの交錯）をとらえることができる。
- 学習の流れ（6時間目／全10時間）《前時までの学習内容は、指導のポイントの1を参照》

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
1 前時の学習内容と本時の学習課題を確認する。 トッコの気持ちの変化から、不思議な世界のひみつをさぐり、「読書への扉」にまとめよう。	・トッコの気持ちの変化について、前時の学習内容から確認させる。	
2 物語の展開の特徴について考える。	・どこまでが現実でどこからが不思議な世界なのか、叙述を基に考えさせる。 ・トッコの気持ちが変わったのはなぜか、物語の展開の特徴と関連付けながら考えさせる。	
3 物語の特徴から、ファンタジーのおもしろさについて考える。	・例えば、次のようなことについて交流させ、ファンタジーのおもしろさに気付かせる。 ① 不思議な世界での体験が、現実の世界のトッコの気持ちを変え、成長させたこと。 ② 不思議な世界への入口が風であるなど、ファンタジーならではの「しかけ」があること。	
4 本の紹介カード「読書への扉」に、この物語のおもしろさや感想をまとめる。	・ファンタジーならではの「しかけ」、不思議な場面や気に入ったところ、登場人物への手紙等、学習内容が埋め込まれた本の紹介カード「読書への扉」を用意する。	・叙述を基に、不思議な世界での体験によってトッコの気持ちが変わったことをとらえている。 〔読むこと〕 （ノート、本の紹介カード）
5 本時の学習を振り返る。	・本の紹介カード「読書への扉」で学習内容を振り返らせる。 ※次時は、「読書への扉」を使って紹介し合う。	

言語活動の充実

物語を簡潔に紹介する（～が～することによって～する物語）

登場人物への手紙（感想でもよい）

一番不思議に感じたこと（一番好きな場面でもよい）

ファンタジーならではのしかけ「不思議な世界への入口」

「扉」を開くと、ファンタジーの魅力があふれ出るしかけです。

本の紹介カード「読書への扉」の例

指導のポイント

指導事項を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する

■ 例えば、本単元では、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むこと」や「目的に応じて、本を選んで読むこと」を指導するために、単元を貫く言語活動として「友達におすすめの本を紹介する」ことを設定しています。このことにより、教材を読むことへの目的意識が高まり、児童の読みの質が向上します。

導入の学習	展開の学習	発展の学習
○ あまんきみこの作品等、教師のおすすめのファンタジーの読み聞かせを聞く。 ○ おすすめのファンタジーを、「読書への扉」を使って友達に紹介するという目的意識をもつ。	○ 「つり橋わたれ」の物語の展開のおもしろさや登場人物の気持ちの変化をとらえる。 ○ 「つり橋わたれ」のおもしろさを紹介する「読書への扉」を作り【本時】、交流する。	○ 自分が選んだファンタジーの「読書への扉」を作る。 ○ 実際の本と「読書への扉」を示しながら、おもしろいところを紹介する。

言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明する」

他のファンタジーなどの並行読書（単元の学習と並行して関連した本を読むこと）

児童にモデルを示し、ファンタジーを紹介したくてたまらない気持ちにさせましょう。

物語の展開のおもしろさや登場人物の気持ちの変化等を埋め込み、効果的な紹介の方法を工夫するよう指導しましょう。

並行読書により、みんなに紹介したくてたまらない本がある状態にさせましょう。

「読むこと」の単元学習を、実生活の読書の充実につなげる

■ 「並行読書」（単元の学習と並行して関連した本を読むこと）により、様々なファンタジーを読ませ、ファンタジーの面白さに浸らせましょう。本の紹介では、さし絵を示させたり、「読書への扉」の中で好きな文を引用させたりして、楽しく表現させましょう。また、読書活動年間指導計画や推薦図書リスト等を活用し、学校全体で児童の読書活動の充実に取り組みましょう。

新学習指導要領では 目的に応じて本や文章などを選んで読むことを重視

- 今回の改訂では、実生活で生きてはたらく国語の能力を身に付けるため、読書活動について、目的に応じて本や文章を選んで読むこと等が重視されています。このことを受け、各学年で、実生活における読書との関連性をもたせた言語活動例が示されています。
- 本単元は、第3学年及び第4学年「C 読むこと」の「文学的文章の解釈に関する指導事項」及び「目的に応じた読書に関する指導事項」を、言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を通じて指導するものです。「つり橋わたれ」の解釈を通じて読みの観点をもたせ、自分が紹介したい本を選ばせ、説明させます。児童は、学習を通じて読書の楽しさを味わうこととなり、日常の読書生活の充実にもつながります。



中学校 国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 学年 第1学年
- 単元名 情報を読み取ろう『音読のすすめ』リーフレットを作ろう
- 教材名 「脳のはたらきを目で見よう」川島隆太（東京書籍）
- 言語活動 音読の大切さを小学生に伝えるためにリーフレットを作るという言語活動を通して、文章から目的に応じて必要な情報を取り出し、要約する力を付ける。
- 本時の目標 音読についての必要な情報（図、関連した説明）を取り出し、図に対応した補足説明を考えることを通して、文章を事実と筆者の考えとに読み分け、必要に応じて要約することができる。
- 学習の流れ（3時間目／全6時間）
《前時までの学習内容》「音読がなぜ必要か。」という目的をもって本文を読み、音読すると脳が最も活性化することを確認した。そして小学生に音読の大切さを伝えるリーフレットを作成する活動を設定した。本時はリーフレットに掲載する必要な図を選び、その図の補足説明を書く学習である。※単元末で小学生にリーフレットを紹介。

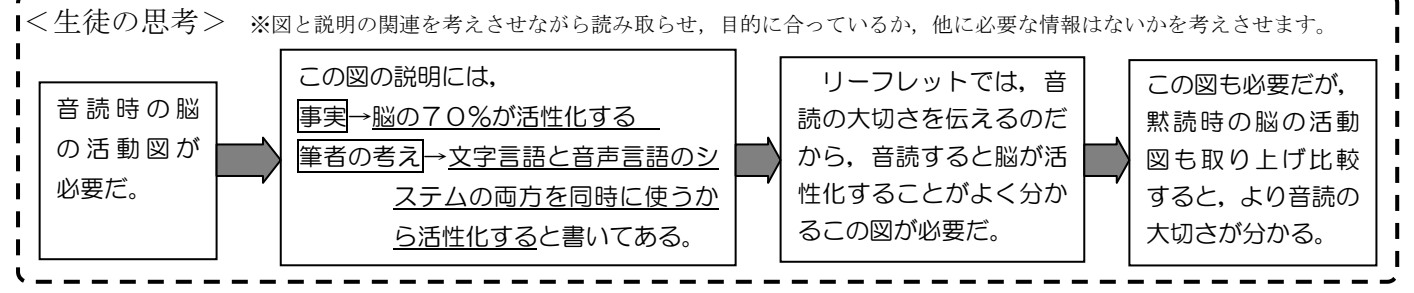
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の目標を確認する	小学生に音読の大切さを伝えるために、必要な図と説明を取り出し、図の補足説明を書こう。	
2 音読の大切さを伝えるために必要な図と説明を取り出す。 ○ 必要な図を選ぶ。	・10種類の図の中で、選んだ図がなぜ必要なのか考えさせる。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p><生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音読時の脳の活動図が必要 →音読すると脳が活性化することが分かるから。 ○ 音読時の脳の活動図と黙読時の脳の活動図が必要 →比べるものがないと音読が一番活性化すると言えないから。 →黙読でもよいと考える小学生が多いから。 ○ 上の二つの図と脳の各部分と機能の図が必要 →なぜ、活性化するのか説明する時に必要だから。 →活性化している脳の部分を具体的に説明する時に使えるから。 </div>	
○ 選んだ図に対応する説明の内容を確認する。 ○ 班内で交流し、全体で確認する。	・図を説明している文章から事実（脳のどの部分がどのくらい活性化しているか）と筆者の考えを取り出させる。 ・モデル文を示し、補足説明の役割を確認させる。 ・必要な情報を本文から取り出させ、まとめる手順や分量を示し、要約させる。	・文章を事実と筆者の考えとに読み分け、必要な図と説明を取り出し、それを要約して補足説明を書いている。 〔読むこと〕（行動観察、ワークシート）
3 図の補足説明を書く。		
4 本時のまとめと次時の確認をする。	・次時で本時の学習を踏まえながら、「私が音読をすすめるわけ」を考えていくことを確認する。	

言語活動の充実

指導のポイント

目的に応じて必要な情報を取り出させる

■ 学習活動2において、本文中から必要な図を選ばせる際には、図を説明している文章を事実と筆者の考えとに読み分けさせてその違いをとらえさせた上で、この図がリーフレットの目的に合っているか判断させましょう。



目的に応じて要約させる

■ 学習活動3において、「音読の大切さを伝えるリーフレットに掲載する図の補足説明を書く」という目的を明確にしましょう。また、必要な情報を本文から取り出しまとめる手順を教えましょう。

補足説明を書かせる手順

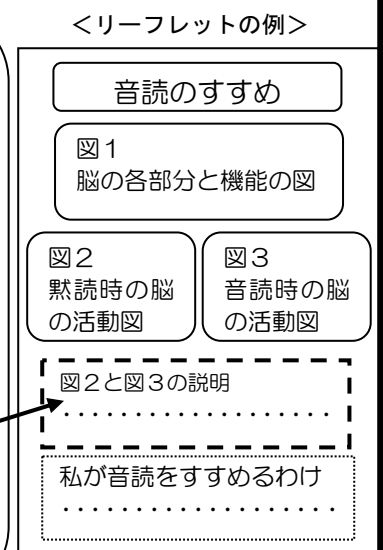
- ① モデル文を示し、補足説明の役割を確認させる。
- ② 本文中の説明から、図だけでは分からない情報でしかも音読の大切さを伝えているという情報を取り出させ、一つの内容を一文にまとめさせる。

例

 - 音読時は、脳の70%以上もの神経細胞が働く。
 - 脳が黙読時よりも広い範囲で活性化している。
 - 音読は、文字言語と音声言語の二つのシステムを同時に使う。
 - 二つのシステムを同時に使うから、これほどまでに活性化すると考えられる。
- ③ 補足説明の分量を示し、それに合うように②をつないでまとめさせる。

補足説明の例 ※100字程度でまとめさせる。

音読時の脳は、黙読時より広い範囲の脳の70%以上が働き、活性化しています。これは、音声言語のシステムと文字言語のシステムの両方のシステムを同時に使うからと考えられています。



新学習指導要領では (1)の指導事項を(2)の言語活動例を通して指導することを一層重視

- 今回の改訂において、各領域では、国語の能力を調和的に育て**実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら生徒主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実かつ豊かに表現できるように内容を改善**しています。各学年の内容の指導に当たって、(1)の指導事項を(2)の言語活動例を通して指導することを一層重視しています。
- 本事例では、「音読のすすめ」リーフレットを作るという目的で、本文中から必要な図と説明を選び、図の補足説明を書く活動を設定しています。目的をもたせることで、**主体的な読み取り**になります。また、必要な図と説明の関連を読み取ることで、**文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分ける**ことができるようになります。図の補足説明を書くことで、**目的や必要に応じて要約**することができるようになります。

高等学校 国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 古典の言葉と現代の言葉との関係を意識したり、古典の書き手や文章中の人々と、現代の人々との共通点や相違点を考えたりすることができる。

思考力、判断力の育成

- 科目 国語総合
- 学年 第1学年
- 単元名 伊勢物語 芥川
- 本時の目標 芥川の段を現代の物語に書き換えることにより、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。
- 学習の流れ (3時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時までの学習内容の振り返り。 ○ 前時までの学習内容を確認する。 2 本時の目標を確認する。 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおう。	・芥川の段に描かれた物語の世界、前半と後半のつながりや描かれ方の違いについて学習したことを振り返らせる。	
3 現代の物語に書き換える。 ○ 本文を音読し、前時までに読み取った内容を想起する。 ○ 本文の口語訳を参考に、現代の物語に書き換える。 ○ 男、女のいずれかの視点で、まずは前半部分を書き換える。 ○ 生徒の作品について、優れている点を評価する。 ○ 後半部分を書き換えるに当たり、どのような工夫が考えられるか、どのようなことに留意すべきかを考える。 ○ 後半部分を書き換える。	・数人を指名して音読させる。人物の心情、場面など前時までに読み取った内容を想起させる。 ・書くための時間は10分程度とし、数名に発表させる。 ・生徒の作品は投影機を用いてスクリーンに映す。 ・工夫については創作に生かすよう指示し、留意すべきことについては、数名に発表させる。不十分な点は補足する。 ・うまく書き進めることができない生徒に対しては、机間指導により助言する。	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。〔読む能力〕(作品)
4 本時の学習内容の確認と次時の予告。 ○ 作品を読み返し、分かりにくい部分がないかを確認した上で提出する。	・完成しなかった場合は、次時までの課題とする。	

言語活動の充実

指導のポイント

登場人物の視点で書かせる

- 古典を現代の物語に書き換える活動を行わせるに当たっては、口語訳とそっくりにならないようにさせることが必要です。今回は、男または女のいずれかの視点で書かせることで、口語訳とそっくりにならないようにさせています。

工夫すべき点、留意すべき点について十分に考えさせる

- 古典を現代の物語に書き換える活動を行わせるに当たって、どのような工夫が考えられるか、どのようなことに留意すべきかを十分に考えさせることが必要です。今回は、前半部分を書いたところで一旦中断させ、考えさせる時間をとっています。

伊勢物語 芥川の段の本文。

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、……

板書例

目標
文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおう。

- 芥川の段を現代の物語に書き換える。
- ※ 男、または女の視点で書く。
- ※ 留意すべき点。
- ・イメージをふくらませること。
- ・気になる古語の意味については、辞書で確認すること。
- ・「芥川」以外の題も考えてみる。
- ・擬音語、擬態語などを適宜用いること。
- ・あらすじを変えないこと。

新学習指導要領では

指導事項を言語活動例を通して指導することを一層明確に

- 今回の改訂では、各科目及び領域の内容の(1)に指導事項を示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成しています。これは、内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層明確にするとともに、各教科・科目等における言語活動の充実に資するためです。
- 本時の学習活動3では、古典を現代の物語に書き換える言語活動を行います。人物、情景などについてのイメージを具体的にもったり、人間、社会、自然などに対する書き手や文章中の人物の考えや感情を想像したりすることで、文章の内容や表現を一層深くとらえることができるようになります。

高等学校 芸術科(書道)の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 対象物をより細部まで深く鑑賞し、自分にはない価値、感性、表現効果を味わい、感じ取ることができる。

思考力、判断力の育成

- 科目 書道 I
- 学年 第1学年
- 題材名 漢字の書 ー書風の異なる楷書を味わうー
- 本時の目標 古典の文字の表現効果を味わい、その特徴を生かした掲示物を書くことができる。
- 学習の流れ (6時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<p>1 前時に選定したお気に入りの古典臨書の学習を踏まえ、その書風を生かした掲示物を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に記入したワークシートに基づき、古典の特徴、書風、書かれた背景、技法、用筆法などを深く理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある掲示物を想起し、自分が選定した古典の書風に合う掲示物は何かを素早く決定させるために、掲示物の語句例を準備しておく。 ・書風が異なることによって掲示物の持つ雰囲気や表現効果が異なることを例を示して説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典から受ける表現効果を味わい、その特徴を生かした表現の工夫ができる。〔書表現の構想と工夫〕(観察・ワークシートの記述)
<p>2 古典の特徴や書風を生かした掲示物を各自が制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートの記入、整理から、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図した表現効果が表れているか確認しながら制作させる。 ・考えたこと、自分としての根拠などの必要事項をワークシートに記入させる。 ・字典を活用した検字を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に合った表現で掲示物を作している。〔創造的な書表現の技能〕(掲示物、ワークシートの記述)
<p>3 同じ古典を選んだ者でグループになり、各自の作品と自分の考えを説明し、互いに鑑賞を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が書いた作品の制作意図、工夫した点を紹介する。 ○ お互いの説明から新たな見方や感じ方に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にはない見方や感じ方があれば、メモをさせる。 ・グループごとでの全体発表にむけ、効果的な発表方法や作品提示方法を考えさせる。 ・ワークシートを活用して深まりのある発表、根拠を明らかにした発表の準備をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議に積極的に参加している。〔書への関心・意欲・態度〕(行動観察、発言、ワークシートの記述)
<p>4 グループごとに話し合ったことを全体で発表し、互いに鑑賞を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループで発表を工夫し、掲示物の意図、表現効果を全体に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような効果をねらったものかを明確にさせながら発表させる。 ・古典学習の深化と発展的な学習であることを意識させる。 ・漠然と鑑賞するのではなく、積極的に質問するようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物の効果を自分の思いや考えをもって味わっている。〔鑑賞の能力〕(行動観察、発言、ワークシートの記述)
<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、感想と各自の課題を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習目標に対する取組状況を評価する。 	

言語活動の充実

指導のポイント

筋道を立てて考え、表現力を深めるためのワークシートを工夫する

- 書風の違いによって作品から受ける印象が変わることは難しく理解できても、その後に、この書風に合う掲示文は何かを考えることは難しいと考えられます。
そこで、掲示物の文言を書風の異なる古典で書き比較させたり、生徒に特定の古典を選定させた後、より深く鑑賞するために、書風や書法を分析的に理解させるための段階的なワークシートを作成してみましょう。

「それぞれの古典の持つ書風や味わいを生かしましょう。」



工夫
「古典の特徴を分析的に理解し、書風と掲示物の相関を、試書、比較して、より効果的な表現を発見しましょう。」

「この古典にはこの掲示文がよく似合う。」・・・

「この掲示内容はこの古典、この表現でないと効果が出ない。」・・・

※校内や地域にある掲示物を想起させ、形式や形状、色彩にまで関連付けさせると、作品制作において用具・用材を工夫するなど、生徒一人一人が個性的で創造的な学習活動として意欲を示し、鑑賞から表現、技能を高めることに繋がります。

効果的な発表にむけ、グループ討議と作品の提示方法を工夫させる

- 発表の方向性(内容や手順)を示したワークシートを活用してグループ討議をさせると**考えが明確になり**、発表内容が充実します。
更に、作品の提示方法を工夫すれば、説明が分かりやすくなり、**説得力が強まります**。

工夫
「各自の作品を持ち寄り、グループで話したことを発表しましょう。」

「ワークシートを参考に、グループで考えをまとめ、作品の提示にも工夫を凝らしながら、説得力のある発表にしましょう。」

新学習指導要領では

互いに批評し合う活動を取り入れることを重視

- 今回の改訂では、感じ取る力や思考する力を一層豊かにするために、自分の思いを語り合ったり、**自分の価値意識をもって批評したりするなどして、自分なりの意味や価値を作り出していく**ような鑑賞の指導を重視しています。
- 本事例では、「作品の制作意図と表現効果を説明し合う」活動を位置付けています。他の生徒と意見交換することで自分にはない価値、感性、表現効果に味わい、感じ取ることができるようになります。

